

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
生活支援技術Ⅲ Independent Living Skill Ⅲ		1年	前期 1 / 2	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
1単位	演習	選択	(介護福祉士養成課程 必修)	介護福祉士養成課程の学生のみ履修可
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
こころとからだのしくみⅠ・Ⅱ				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
特になし				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
和田晴美／久保由佳	福祉棟 2F	月・火・水・木の9時から16時（授業時間を除く）		授業中に指示します
授業の概要				
生活支援技術Ⅲでは、「こころとからだのしくみⅡ」で学んだことを基本に、生命と健康の維持のための、食事および排泄の意義と目的について学習する。また、食事および排泄に関するアセスメントの方法や、利用者の自立に向けた支援を行うための基本技術を習得する。				
授業の目標				
①食事と排泄の意義を列挙できるようにする。 ②基本的な食事介助、排泄介助の方法と留意点を説明できるようにする。 ③演習での利用者役やおむつ体験を通して、利用者に合わせた支援方法を選択できるようにする。 ④臥床している人に対しプライバシーに配慮して、安全・安楽・的確なおむつ交換の実践ができるようにする。				
授業の方法				
講義・演習を通して、食事・排泄の意義と目的、安全で的確な介助の技法、利用者のアセスメント、利用者の状態・状況に応じた介助の留意点などを学習する。授業の半分ほどが演習となる。学生は利用者役、介護者役を体験しながら実技を学んでいくが、単に手順を覚えることに集中するのではなく、利用者の立場から介護を受けとめ、より良い方法を考えていく機会としたい。				
学習の成果（学習成果）				
①食事と排泄の意義と目的を明確にし、食事および排泄の支援に関する基礎知識を習得し、安全で的確な食事および排泄介護を、基本をふまえて実施することができる。 ②演習を通して、自分自身の生活支援技術の不足部分を明確にし、技術向上のための練習に真摯に取り組むことができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ガイダンス（シラバスにそって授業概要、授業の目標と学習の成果、評価方法等の説明） 自立に向けた食事の介護 食事の意義と目的 介護者の役割			(和田)
第2回目	食事に関する利用者のアセスメント 利用者の状態・状況に応じた食事介助の留意点			(和田)
第3回目	安全で的確な食事介助の技法 食事の介助 ＜課題① 振り返り用紙＞【演習】			(和田・久保)
第4回目	利用者の状態・状況に応じた食事介助の実際 視覚障害 咀嚼・嚥下機能障害 運動機能障害 <課題② 振り返り用紙>【演習】			(和田・久保)
第5回目	食事の介護まとめ 【グループディスカッション ①②の演習振り返り】			(和田)
第6回目	自立に向けた排泄の介護 排泄の意義と目的、介護者の役割			(和田)

第7回目	排泄に関する利用者のアセスメント 安全で的確な排泄介助の技法 利用者の状態・状況に応じた排泄介助の留意点 (和田)	
第8回目	利用者の状態・状況に応じた排泄介助の実際① おむつ交換 【演習】 (和田・久保) <課題③ 振り返り用紙 提出は第9回> <課題④ おむつ体験レポート 提出は第13回>	
第9回目	利用者の状態・状況に応じた排泄介助の実際② おむつ交換 【演習】 (和田・久保)	
第10回目	利用者の状態・状況に応じた排泄介助の実際③ ベッド上排泄 【演習】 (和田・久保) <課題⑤ 振り返り用紙 提出は第11回>	
第11回目	利用者の状態・状況に応じた排泄介助の実際④ ポータブルトイレの介助 【演習】 (和田・久保)	
第12回目	利用者の状態・状況に応じた排泄介助の実際⑤ 自由練習 【演習】 (和田・久保)	
第13回目	実技の確認 (おむつ交換) (和田・久保)	
第14回目	排泄の演習、おむつ体験振り返り 【グループディスカッション】 (試験) (和田)	
第15回目	グループディスカッションの発表 排泄の支援のまとめと補足 (和田)	
成績評価の方法と基準		
評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度	20%	以下の視点で評価する。授業の準備 (演習時の整容を含む) が整い、講義は集中しており、疑問点は質問して解決できること。ディスカッションでは他者の意見を聴き、自ら積極的に発言して学びを深められること。
レポート	20%	課題①、②、③、⑤の演習振り返り用紙の内容、提出期限厳守の状況などで評価する。評価基準Sは、演習を振り返り、課題に従って自身の学びを客観的に記述でき、介護に対する抱負が述べられること。
調査報告書	10%	おむつの購入から実体験までの「おむつ体験レポート」を課す。評価基準Sは、課題を十分に理解し、適切かつ正確な資料で分かりやすく工夫した内容構成であること。提出期限を厳守して提出すること。
小テスト		
試験	50%	実技試験 (20%おむつ交換) および筆記試験 (30%) を行う。筆記試験は記述問題。実技試験の評価の視点は、講義で説明する。
発表内容 (態度含む)		
その他		
教科書と参考図書		
①新・介護福祉士養成講座 第7巻「生活支援技術Ⅱ」中央法規出版 ②生活支援技術の手引き		
履修上の留意点・ルール		
講義・グループディスカッションともに積極的に参加し、学びを共有してほしい。演習時は身だしなみを整えること。また、自己練習をし、技術の向上に努めること。教室での飲食、机上への飲み物の放置も禁ずる。やむを得ず欠席する場合は、必ずその部分の学習を補い、届け出は速やかに提出すること。この授業は、「こころとからだのしくみⅡ」に引き続き行う前期後半のクォーター科目である。週2回授業があるので、注意すること。		